



The Y's MEN's CLUB of もいおか



<VOL146.2020.2>

もりおかクラブ事務所：〒020-0804 盛岡市本町通3丁目1-1 Tel 019-623-1575 盛岡YMCA内
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」

「主題」

「よりよい明日のために今日を築く」

「アクション」

「勇気ある改革、愛ある行動」

「われら北東部、世界のワイズメンと共に前へ進もう」

「土台を固め未来への扉を開こう！！」

副題「明るい未来へ Let's Go」

国際会長	Jennifer Jones (オーストラリア)
アジア太平洋地域会長	田中 博之 (日本)
東日本区理事	山田 敏明 (十勝)
北東部長	鈴木 伊知郎 (宇都宮東)
もりおかクラブ会長	三田 庸平

今月の聖句 ヨハネの手紙1 3章18節



「子たちよ、言葉や口先だけでなく、行いをもって誠実に愛しあおう。」

会長	三田 庸平
副会長	長岡 正彦
書記	濱塚 有史
会計	大関 靖二
担当主事	浅沼 慧 (しどう)
	中村 渉 (チャン)

3月新年例会のご案内

日時 開催中止

第二例会、 開催中止

三田会長 巻頭挨拶



三田会長

盛岡の冬らしさが来ることもなく寒さが和らいできています。とても過ごしやすくありがたい反面、寂しい気がします。そして、白鳥の飛び去っていく姿も見え始めています。もりおかクラブの状況は変わることなく過ごしていることにありがたく思っています。

さて、全国的にはコロナウイルスの話が絶えません。早めの終息がなされることを願っております。また、感染された方又その家族の方々が安心して暮らせる時期が早めに訪れることを願っております。そして亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

もりおかクラブでは、先日毎年恒例のそば打ちを行いました。多くのリーダー達とふれあいの場を持って嬉しく思います。また、ゲストの方も参加していただき、近いうちに例会の方にも参加してくれる事をお願いいたしました。また、ピンクシャツデーにちなんで、タグラグビーという色々な世代の方と楽しめる活動でした

様々な活動を通し、多くの年代の方々と交流持てる場にはこれからも参加し、我々も盛り上げていけたらと思っています。

2月新年定例会の報告

令和2年2月8日(土) 盛岡、北ホテルにて開催、参加者、三田会長、山口、大関、長岡、濱塚、井上、井上優子、魚住、加藤、浅沼(敬称略)。ゲスト、齋藤七彩さん(トラックリーダー)、尾河芽生さん(ビリケンリーダー)、以上12名の参加で開催されました。

今月も卓話はなしで、参加者の2分スピーチで近況を報告しました。同じ時間を過ごしながら、いろんな事が同時に起きているんだとつくづく思いました。スピーチはこの後特集しております。



今月もよろしく～、乾杯～

ここに贈呈

2分間スピーチ

加藤メン: 1月15~18日、東山荘で行われた農村塾に行ってきました。66回目の開催でした。農家や農業に興味がある方が集まり、何のために農業をやっているのか考えさせられました。奉仕の心で農業を行わなければならないと思いました。

山口メン: 試験が無事に終了しました。12月に KISS のコンサートに行ってきました。中学校の頃のキッサーミーを思い出していました。最後のコンサートツアーが盛岡で行われ日本では5箇所、2箇所は被災地で行われました。全国からファンが集まり、白髪のおじさんたちが往年のキッサーミーに戻っていました。私も大興奮でした。

魚住メン: クリスマスの頃に、三人の博士というお話がよくされます。長女の結婚で旦那さんに「どこの馬の骨だ」と言いたかったのですが、言えないまま長女は結婚しました。初孫が生まれ横浜に向かう途中、「南の空に輝く星を目指して来てね。」というメールをもらいました。(一同感激です。)

井上メン: 仕事が忙しくなっています。まだまだ頑張らなければいけません。76歳ですが、年輪を刻んでいきます。

齋藤七彩さん(トラックリーダー): 先日、東京で全国街づくりサミットというイベントに参加して、私達の宮古での活動を発表してきました。被災地支援、自分たちの宮古が好きという思い、子どもたちの存在の大きさ、などをお話しました。

浅沼: 長男が卒園までもう少しです。お昼寝が無い生活に移行して、帰ってくるとうつろいながら遊んでいます。次男が自分で作ったお面のサングラスの色が黒で、男らしいと思ったのですが、奥さんは裏に描いたお花の絵がお気に入りでした。可愛らしさをいつまでもと思った瞬間でした。

井上優子メネット: 娘をお嫁に出すときの相手を「馬の骨」と表現していましたが、井上が私の父親に挨拶した時「どこの馬の骨だ。」と言われてしまい、しばらく陰悪でした。長男も同じ事を言われたそうです。会社の事務で働いている方は3

歳の子供がいます。子供を育てながら働くことの大変さをもすごく感じています。女性は大変です、社会も変わりません。

長岡メン: 上品なメネットの後では、プレッシャーがかかります。今年カモシカは来てくれていません。キジもきていません。うさぎの足跡はあります。カモシカの名前は「モシカとモニカ」と名付けています。何を話しているのかとりとめがない。

三田会長: 先月2回、東京に行く機会があり、次のユース事業主任の目標と予算を発表してきました。周りの方々に支えられています。また、両親と3人で旅行にもいってきました。大阪の難波花月や太陽の塔を見てきました。

尾河芽生さん(ビリケンリーダー): 今年の目標として箸の持ち方を治す、家計簿をつけるというのを掲げました。コンビニでご飯を買うと高く付くことに気づきました。来月、YMCA は卒業しますが、大学は卒業できません。小さな目標を立てて、1日1日を充実させて生活をしていきます。

濱塚メン: 最近、濱塚は面白くないという事で、早く眠りたいので大江健三郎を読んでいます。「曖昧な日本の私」という本を読んだときに、大江は四国の山の中に住んでいて、そのときに読んでいた「ハックルベリー・フィン」の冒険、「イルスの不思議な旅」の2冊が彼の人生をつくったということで私も習い、ハックルを借りてきて読みはじめ、上巻が終わりました。彼はどのように人生をつくったかわかりません、下巻に期待します。



2月定例会集合写真

北東部ユースリーダーズアクト

& エンジョイドッジボール大会

2月15日、北東部ユースリーダーズアクト。2月16日エンジョイドッジボール大会に参加してきました。ワイズからは井上、井上優子、長岡、濱塚(盛岡YMCA総主事)、リーダー8名で栃木県芳賀青少年の家、清原体育館で行われました。盛岡YMCAの今年の出し物は、栃木県民の歌を歌うというものでした。栃木県出身のみんな(岡田稜平さん)が栃木県民は全員歌うことができる県民の歌を歌いましょうという事で、バスの中で猛特訓が始まりました。どんどんオリジナルの編曲が加わり完成しました、はたしてうまくいか。

フェイスブックより、みんなの感想文掲載(了解済です。)

とちぎYMCAと今年も交流の機会をいただきました。地元のことを知ってもらおうとしてくれる盛岡の人たちも嬉しいし、盛岡のことを好きになってくれようとする栃木の人たちも好き。いろいろ考えたけど、そういう人たちが好きなんだなあ実感しました。県民の歌を、盛岡の人たちと練習して、栃木で歌えた幸せをかん

じました。

ディスカッションでは、キャンプやサッカーなどなかなか経験をすることのできないことを、経験させる場を提供することがリーダーの役目であることを改めて感じました。それだけでなく、食事などの普通のことが満足できていない人のことを知りました。そういったことを含め、子供たちに色々な機会を与えてあげたい。そう思えるいい機会になりました。

そしてドッジボール大会、今年もアツかった!!! やっぱり楽しそうにやっているチームが一番いいなと側から見て思いました。と、あるチームの子にグリーンカードをあげました。すごく喜んでくれましたが、一番嬉しかったのは、もらった選手の周りにいた選手、監督、コーチ、親御さんたちもうれしそうだったこと。他人の幸せを当然のことのように喜べるチームで、すごくいい雰囲気だなあと思いました。

2日間、いろいろと迷惑をかけましたがお世話になりました。またいつか会えたらいいな!とちぎYにはまた遊びに行こうかなと思います。迷惑じゃなければ(笑)

盛岡大学文学部児童教育学科2年 佐藤彩苗(ほや)

私は2月15、16日に行われた「北東部ユース・リーダーズ・アクト2020」に参加しました。今回、私が参加しようと思ったのは、リーダーとして活動を重ねていく中で自分の強みや子供達との接し方等について悩むことが多く、解決の糸口を見つけたかったからです。そのため盛岡を飛び出し、他の方々と初めて交流するこの機会です、とにかく人と関わり自分の視野を広げることを目標に臨みました。1日目は交流会とディスカッション、2日目はエンジョイドッジボール大会の運営を行いました。

2日間を通し、特に印象に残っていることが1日目のディスカッションで話し合った、「貧困」についてです。貧困といっても金銭貧困といった「見える貧困」と、つながりや体験等の欠如という「見えない貧困」があることを知り、リーダーだけではなく、スタッフやワイズの方々も交えて話し合うことで大変勉強になりました。



た。また、以前行われたリーダートレーニングで「人が喜ぶことをする体験」を子供もリーダーもたくさんしてほしいと教えていただいたからこそ、私の中では「見えない貧困」という言葉が強く印象に残っており、その中で子供達に必要な体験とは何かについてとても考えさせられました。

私の強みは「人」だと思います。私自身YMCAで活動を始めてから、沢山の子供や保護者の方々、リーダー、スタッフ、ワイズの方々に関わり、相手のことを知ったり、反対に自分を知ってもら

たりを繰り返して、関係を築くことができました。今回のリーダーズ・アクトでも「知る、知ってもらう」を繰り返すことで、知ってもらえた時の喜びを改めて体験することができました。だからこそ、様々な活動に参加し、子ども達を始めとした多くの人と出会う時には、お互いを知ることを大切に、相手を知っていく中で「これが私なんだ。」と、自分にも気づき、共に成長できる、これからも活動に励んでいきたいです。

「ズリテン盛岡DAON」

もりおかクラブの状況報告

2月の出席率	10/14	71 %	ゲスト 20名	ビジター 2名	メネット 2名		
メーキャップ	1	名		2月切手	95 g	累計	498 g
2月のにこにこ	17,500	円	累計	焼きそば	0 円	累計	42,000 円
2月 石鹸	1,800	円	累計	りんご	0 円	累計	0 円
2月 献金	1,000	円		ファンド合計	0 円		

会費の納入をお願いいたします。岩手銀行 松園支店(店番号 082)普通口座 2145674

もりおかワイズメンズクラブ 会計 大関 靖二

2月のハッピーバースデー 2/18 加藤 淳メン、お誕生日おめでとうございます。

もりおかクラブ恒例「そば打ち体験、試食会」

今年もやってきました、そば打ち体験、試食会。盛岡YMCAの送迎バスを運行している長岡は、今年の試食会には参加できないと思っていましたが、第一ワークの移動販売が入り、YMCAはお休みしました。結果、試食会に参加できました、ラッキーです。今年の参加は、大人数になりました。続々集まってくるリーダー達に驚きと感謝の心で出迎えました。懐かしい顔がありました千葉代子さんです。もりおかクラブ10周年以来の再開に「懐かしいね。」と再会を喜びました。

さてと、そば打ち開始です。ワイズ庵の大関番頭さんが作業開始、初めてのリーダーたちが取り囲み、手順を凝視します。「なんか、さらさらしてる、イメージより水分が少ないような？」どうやらどろんこ遊びのイメージだったようです。「これでいいんだよ」と大関さん。ぽろぽろの粉を集めて、まとめて行きます。大きな塊になりました。「ここからが力作業、300回こねるんだ、こうやって、力強く。やってみて」こねの作業を任されたリーダー達は



初体験そば打ち え、さらさら？ 師匠大関メネット うまく切れた？
交代しながら練り上げます。数を数えていましたが、邪魔が入りまともに数を数えられません。大関さんが状態を確認してOKを出しました。たぶん120回くらいでこね作業は完了。ここからゆっくりと生地を伸ばしていきます。「慌てると、ふちが割れるからゆっくり伸ばすんだ。」棒を使って伸ばされる生地は、どんどん広がり、面積を拡大していきます。薄く伸ばされた生地をたたんで、麺切りの作業に移行。細くきれいな麺に切っていきます。お手本の大関さんはさすがにうまい。リーダー達の麺切りは手つきが危うい、じっと見ていた加藤メン、「貸してみな」と交代しまし

た。下半身をリズムよく上下させ、トントンと切ってきます。その速さと麺の美しさにリーダー達も驚愕。加藤メンの意外な能力の発揮に、こりやまたまげた。もしかして、そば打ちのプロ？そうに違いありません。切りあがったメンを、井上メネットと大関メネットが手際よく煮上げてくれます。煮上がった麺を冷水でしめて、ざるに盛り付けて完成。「さあ、召し上がれ」「わ～、おいしそう」リーダー達が群がり、一回目の試食完了。「おそばって、こんなにおいしかったっけ？」大関メネットの特製タレと副食のてんぷらと卵焼きでざるそばを食べます。「ん、毎年の事ながら今年もおいしいね。」全員満足感でいっぱいでした。これを6回続けて、わいわい、がやがや、「下手」とか「上手」とか「綺麗」とか、

いろんな感想でも盛り上がったそば打ち体験試食会は今年も大成功です。大関さんご夫妻に感謝しましょうね、みなさん。



やった～、食べた～、大成功、楽しかった～

クラフファンドの原点、わかしおと減農薬りんご

もりおかクラブのファンドとして、「環境を守るわかしお石鹸」販売は宮古市重茂漁協婦人部長盛合敏子様、北田農園の「特別減農薬栽培りんご」販売は北田春男様がいます。どちらの方も例会の卓話として取り組みをお話していただきました。講話に感動して、その後クラブのファンドとして採用、現在に至っております。今年に入りお二人の活動が岩手日報に取り上げられましたのでご紹介します。



1月6日付の岩手日報、女性新時代へという特集記事です。この中で盛合さんは「合成洗剤を使わずに、きれいな海を守って来た事が重茂ブランドを作ってきた。安心安全な海産物だからこそ消費者に選ばれています。私たちは環境にやさしい活動を続けていく義務があります。」と述べています。現在のSD

G'sを35年前から取り組んでいました。微力ではありますが、もりおかクラブもわかしお石鹸の拡販に協力しております。



2月24日付の岩手日報、「りんご生産大臣賞」を受賞した記事です。りんご栽培では難しいとされている農薬や化学肥料の基準の半分以下で生産をしています。見た目にこだわらず食味を重視して、木の葉をとらずに葉から供給される甘みを十分に実に取り込ませるのが特徴です。盛岡市のプレミアムブランドが農林水産大臣賞を受賞しました。

もりおかクラブは「これがりんごです。」と自信をもって皆様にファンドとして販売をお手伝いして来ましたが、生産量は青森、出荷の速さは長野、岩手は全国3位ではありますが、**食べて美味しい「岩手のりんご」、これだけは譲れません。**北田さんおめでとうございます。

盛岡旧町名を探索第6話

鷹匠小路と餌差小路(たかしょうこうじ、えさしこうじ)

新渡戸稲造が生まれ、育った町が鷹匠小路です。鷹匠小路は杜陵小学校脇の押し卸信号交差点から下ノ橋町に向かい、下ノ橋町を横切る本当に狭い通りです。南部藩のお殿様の鷹狩りに使う鷹を調教していた鷹匠が住む町でした。その鷹の餌になる小鳥を捕まえて提供する小姓達が住む町が餌差小路です。餌差小路は前にご紹介した、ホットライン肴町とクロスするこちらも狭い通りです。なにか昔の名残を探しましたが、山田洋行仏具店がありました。もしかしたら唯一老舗の店舗かもしれません。

鷹匠小路は、最近テレビコマーシャルをしている遠山病院の通所リハビリテーション、「鷹匠小路」、マンションの「ネオグランデ馬場町鷹匠小路」が現在に名前を残しています。しかし、鷹匠

の名残は具体的にはありません。時間が経ち、人々の生活の中で面影が無くなっていくのは、仕方のない事なのでしょう。なにか寂しさを感じます。



鷹匠小路を冠した。遠山病院通所リハビリテーション

編集後記

「ファイト、戦う君の唄を、戦わない奴らが笑うだろ」中島みゆきのファイトという歌の歌詞の一部です。今回の新型コロナウイルス感染に伴う対応に日夜奮闘してきた関係者の努力を一切報道せず、対応策を無責任に批判し続けているマスコミ、政治の世界では野党。総理大臣の決断に従わず、休校をしない教育

委員会。戦わない奴らのなんと多い事か。非常事態宣言ならば、対応はその後頑張ればいじゃないか。腹立たしい、国民一丸で難局を乗り切ろうじゃないか。「ワンチーム」というのはこんな時こそ意味を持つ。ラグビーの教えでもあるのだ。私は怒っている。買占めなんかするな、出来ることをすべてやれ！第三者になるな、笑うな。もう少しですべてが解決する。